

子どもたちのために保育予算の大幅増額を!

職員配置

すべての年齢で配置基準のさらなる改善を!

3歳児、4・5歳児配置基準改善につづき、今年度から1歳児でも前進がありました。ただし、1歳児では実施のための厳しい条件が複数つけられており、3歳児、4・5歳児では、基準は改善したものの、当面の間は

4・5歳児の保育士配置基準国際比較

 日本	 フランス (パリ市)	 スウェーデン (ストックホルム市)
25:1 (30:1も可)	15:1	18:3 (実質6:1)

改善前の基準で運営してもよいとされています。

すべての施設で配置基準に基づく運営ができるよう、配置基準改善の完全実施とすべての年齢でさらなる改善を求めていきましょう。



賃金格差

保育士の賃金引き上げを!

低すぎる保育士の給与
月給での比較(2024年)

保育士の賃金は全産業平均と比べて6万円も低く、子どもの命を守り発達を保障する専門職に見合っておりません。深刻な保育士不足の原因にもなっています。保育の質の向上のためにも、保育士等職員の増員、賃金と労働条件の大幅な引き上げは緊急の課題です。



厚生労働省「令和6年賃金構造基本統計調査」の所定内給与(毎月決まって支出する額)より作成

子育て予算

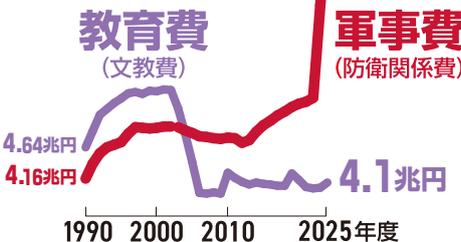
子どものための予算をもっと!

日本の政府予算は、軍事費が倍増する一方で、教育費など国民生活にかかわる予算がとて低く抑えられています。すべての子どもに豊かな保育・学童保育が保障されるよう、子ども・子育てのための予算を大幅に増やすべきです。



政府予算における教育費と軍事費の推移

財務省「財政統計」および各年度の予算書から作成(当初予算ベース)



大丈夫なの?こども誰でも通園制度

子育てを支えるためのさまざまな施策に加え、国は新たに、6か月から2歳までの未就園児を月10時間程度預かる『こども誰でも通園制度』を創設し、2026年度から全自治体で実施するとしています。この制度は、子どもを慣れない環境で時間単位で預かるもので、子どもの命と安全、在園児への影響、保育者への負担増などの問題があり、自治体や保育所等から不安の声があがっています。実施にあたっては、子どもの権利を最優先に、現場や保護者に負担をかけることがないように、公的責任のもとで十分な条件・予算の確保が求められています。

子どもたちのために! 学び、つながろう! 声をあげよう!

よりよい保育を! 実行委員会【2025年度署名】

連絡先: 全国保育団体連絡会

〒162-0837 東京都新宿区納戸町26-3 TEL 03-6265-3171

取扱団体

署名にご協力ください!

子どもたちには保育を受ける権利があります。国と自治体にはそれを保障する責任があります。

子どもたちのために私たちの「願い」を署名に託して、いっしょに国へ届けましょう!

